

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名 **企画文化局**

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアの巨大都市と連携・競争できる広域連携の推進
	取組みの方針	都市のにぎわいにつながる広域的な連携の推進

担当局 / 総務担当課名	企画文化局	企画課
連絡先	582 - 2153	

21年度計画

-3-(2)-

施策名 **九州各地域などとの連携**

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	東九州地域に加え、福北連携を核とした西九州軸の広域連携を強化しながら九州各地域などとの連携を推進し、アジア諸都市を巻き込んだ交流・にぎわいづくりの創出を図ります。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	都市のにぎわいにつながる広域的な連携の推進

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値	
	年度	平成21年度	計画	実績		年度	平成25年度
	九州地域などにおける交流連携都市数		計画	3 都市	年度	平成25年度	
	県境を越えた九州内並びにその他の地域の自治体との交流について、交流した都市の数を指標として設定しています。	現状値	3都市	実績	3 都市	目標値	5都市
				達成度	100.0 %		
		年度		計画		年度	
		現状値		実績		目標値	
				達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	2,583 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
			うち一般財源	2,583 千円	4,125 千円		

## 局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	<b>B</b>	既に福岡市と時代に沿った新しい理念「福北の理念」の合意や下関市との「関門の5連携」としての連携が進められている中、新たに南九州市との交流協定締結による交流事業の開催など、各地域との更なる連携の推進を進め、着実に成果を上げています。
今後の局施策の方向性	北九州市は様々な地域の都市と広域連携を図っており、特に各都市とはそれぞれの強みを活かしていけるよう事業を推進し連携を図っています。今後も経済性や効率性を確保しながら、新たな広域連携を進めていくことが重要です。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

## 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。



# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	企画文化局	政策調整課
連絡先	582-2156	

基本計画	柱	アジアのなかで成長する
	大項目	アジアの巨大都市と連携・競争できる広域連携の推進
	取組の方針	都市のにぎわいにつながる広域的な連携の推進
	主要施策	九州各地域などとの連携

関連計画	
事業期間	
経費区分	裁量的経費

-3-(2)-

事業名	広域連携基盤整備事業	
-----	------------	--

事業の概要	何(誰)をどのよう状態にしたいのか。	成長著しいアジアの巨大都市と連携・競争するためには、本市単独ではなく、九州各地の都市とスクラムを組みながら対峙する必要がある、西九州軸では九州新幹線全線開通を契機に、東九州軸では東九州自動車道路の開通を起爆剤として、現行の連携地域のみならず、九州一円を連携エリアとした広域連携の推進に取り組みます。	
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	九州各地域などとの連携

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		当初計画	事前調査・他都市ヒアリング	新たな連携の構築 1都市(東九州軸)				新たな連携の構築 1都市(西九州軸)	
現状	戦略的広域連携可能性調査、他都市ヒアリングの実施		新たな連携の構築 1都市(東九州軸)			新たな連携の構築 1都市(西九州軸)			
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標		
	東九州軸連携、西九州軸連携、南九州市連携等					計画	3 都市	年度	平成25年度
	大分県中・北部地域までに至る東九州地域の産業・経済基盤の整備と活性化を目的に東九州軸関連の協議会に参画しています(東九州軸推進機構、北大経済圏構想推進協議会、東九州軸地方都市圏連携推進協議会など)。また、九州新幹線全線開通を視野に入れた新たなネットワーク構築のひとつとして、鹿児島県南九州市との交流を始めています。					実績	3 都市	内容	5都市
						達成度	100.0 %		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]					事業費	2,583 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
						うち一般財源	2,583 千円	4,125 千円	
単年度計画									

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 南九州市との交流協定に基づき、イベントへの相互参加や観光PR及び交流事業を実施しました。また、新たな連携先を模索する為の事前準備として、西九州軸・東九州軸の主要都市との連携の具体策を検討した「戦略的広域連携の可能性調査」や他都市ヒアリングを実施するなど、新たな連携先について積極的に検討し、連携実現に向けて取り組んでいます。

【事業の再検証】				
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	3	具体的な広域連携策を検討していくにあたり、連携による本市にとつてのメリットや課題を抽出する上で有効です。	
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4:高い 3:やや高い	3	連携先をひとつずつ検証していかなければならず、また交流がはじまると新たな事業が発生するものの、本市として連携のメリットを手に入れることで得られる経済効果は大きなものと考えられます。尚、担当職員は兼務であり、過少人員で最大限の調査・検討業務に従事しており、経済性・効率性も高くなっています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	2:やや低い 1:低い	3	これからの地方主権時代の到来、迫り来る道州制の導入、アジア諸国との交流を視野に入れた場合、本市のみでなく九州の全体の発展につながる連携策を考える必要があり、遠隔地域との連携を先進的取り組みとして捉え、九州全域を活動エリアとして、リーダー的存在となるべく取り組む必要があります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	広域行政連携という枠組みにより、市が主体となって実施する必要があります。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	本市の活力を増す一つの大きな柱として、アジアのゲートウェイとして交流人口の拡大を図る必要があり、そのためには九州全域を活動エリアとした「広域連携」を推進していくことが重要であり、新たな交流連携都市を増やす取り組みを行っていく必要があります。	